

## 千々石断層

島原半島は地質学的に活発な地域で、今も活火山である。長さ 14 キロメートルの千々石断層により形成されたこの崖の上で、島原半島の過去、現在、未来をもっと知ることができる。

半島全体はゆっくりと南に動いているが、同時に東西に走る断層はその部分を引っ張っている。これは「正」断層と呼ばれ、日本ではより一般的な押す「逆」断層ではない。あなたの南側の土地は北の土地よりもほんの 1 cm 速く動いていて、これによって半島の中心は火山活動が続く限り毎年約 1.5 mm 沈むことになる。東の最も高い地点では、断層による崖は 450 m 以上もある。

半島の中心部が沈むため、水が西側に流れ込んで満たし、あなたの右にある橘湾の一部ができた。一方で、湾の下から溶岩が残り部分の表面まで上昇し、遠くに見える雲仙の山々ができた。あなたの正面にある千々石の町は長い年月をかけて山々から谷を洗い流した物質の上に作られている。

断崖による移動から生じる沈下がなければ、島原半島の中心にある山々は富士山 (3,776 メートル) より高くなっていたことだろう。しかし 1990 年代の平成新山 (1,486 メートル) の噴火で目にしたように、この地域は火山活動により形作られ変化し続けている。